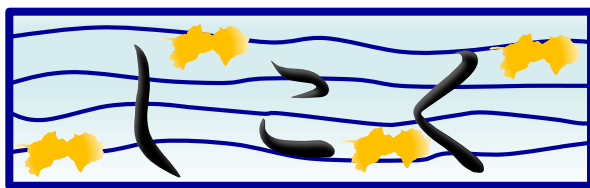


主な記事

- 愛媛県大洲市白滝の山林火災に
対する災害派遣 (1面)
- 四国地区殉職隊員追悼行事 (1面)
- 隊員家族投稿 (中部方面特科隊) (5面)
- 隊員職種紹介 (第14飛行隊) (5面)



令和5年(2023年)11・12月 第184号

旅団長統率方針「万事任務が基準」
旅団長要望事項「実力の進化」「地域との連携」



陸上自衛隊第14旅団広報紙

発行所：第14旅団司令部総務課広報班
住所：香川県善通寺市南町2丁目1-1
電話：0877-62-2311 (内2256・2257)
メールアドレス：pr-14b-ma@inet.gsdf.mod.go.jp

1

愛媛県大洲市白滝の山林火災に対する災害派遣



大洲市長(写真：左)と懇談をする旅団長



愛媛県知事から感謝状を受ける旅団長



煙が立ち込めるなか散水を行うCH-47

5日間にとりわたり消火活動等実施
愛媛県知事より感謝状を贈呈
大洲市長より

第14旅団(旅団長 大場剛 陸将補)は、令和5年11月1日夕から5日までの間、愛媛県大洲市で発生した山林火災に伴い、愛媛県知事からの要請を受け、災害派遣活動を実施した。

山林火災の現場は、急斜面の山であり、地上からの消火活動は困難なことからヘリによる空中消火活動を行うため、第14旅団の唯一の航空部隊である第14飛行隊を基幹とし、中部方面航空隊(八尾・美保)及び航空学校(明野)の支援を受け、UH-1X4機、CH-47×3機のほか、航空機管制、映像伝送、通信、燃料、糧食、輸送等の支援部隊からなる災害派遣部隊を編成し、大洲地区運動公園に活動拠点を設置し空中からの消火活動に当たった。

消火活動は、陸上自衛隊のほか、愛媛県防炎ヘリに加え応援に駆けつけた他県の防炎ヘリを含む6機態勢で行われ、この活動を支援するため、第14飛行隊は、UH-1による現場上空での航空統制を行い、また、支援部隊の第14後方支援隊は、活動拠点である大洲地区運動公園への航空燃料の輸送し、第14通信隊は通信を確保し、中部方面管制気象隊(八尾)は航空機の運航に必要な気象情報の提供、飛行の統制・調整を行った。

活動開始から5日目の11月5日昼、自治体による地上からの消火活動が可能になったことから、愛媛県知事の撤収要請を受け、5日間にとりわたり災害派遣活動を終了し、活動拠点からの撤収に際しては、近傍の方々の温かい見送りを受け、災害派遣部隊は、それぞれの駐屯地に帰隊した。

この活動に対し11月27日、中村時広愛媛県知事より、11月29日、二宮大洲市長より、感謝状が贈呈された。中村知事からは、「午後6時過ぎに災害派遣要請を行ったが午後8時ごろに行った会議の場には自衛官の姿があり、その後、深夜12時に航空機が現場に来てくれた。県が考えていた以上のスピード感を持って対応してくれた。大洲市民はとても心強く感じていた。」等の感謝の言葉を賜り、これに対し旅団長は、「これからも何かあれば役立てるよう精進していきたい。」と話した。 関連③面



現地調整所にて消防との調整を行う隊員(写真中央)



旅団の行動記録のための撮影を行う隊員



第15即応機動連隊儀じょう隊による弔銃

令和5年度四国地区殉職隊員追悼行事

その後、ご遺族を代表され、遺族会中部方面分会四国支部部長より、「職に殉じた私たちの家族は、自らの人生をかけた職において、志半ばとはいえ、これまで信じた道を一杯生きて参りました。私たちが遺族はこのような家族を誇りとして、深い悲しみを乗り越え力強く生きて参る所存です。今後とも、第14旅団が国民のため、そして四国四県の県民のために活躍され、日本の平和が永遠に続くことを心から願っております。」との挨拶をされ、本追悼式への感謝が述べられた。

哀悼の誠を捧げる

第14旅団は、令和5年11月18日、善通寺駐屯地において「令和5年度四国地区殉職隊員追悼行事」を実施した。

第14旅団訓練の1コマ



戦傷治療集合訓練 (第14旅団司令部)

戦傷治療に関する最新の知識及び技能を普及し部隊の能力向上に資する隊員を育成



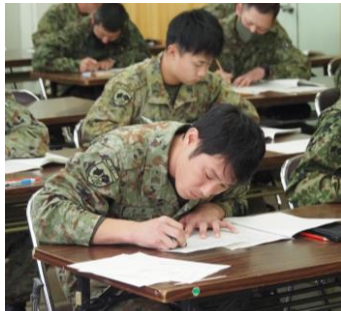
自動2輪操縦集合教育 (第14偵察隊)

普通自動2輪免許の取得及び自動2輪操縦に必要な技能を教育し特技を認定 関連=⑥面



機能別訓練(施設) (第14施設隊)

旅団内各部隊の築城技術を向上



文書特技検定 (第14旅団司令部)

自衛隊に関する文書、庶務等に関する業務を行うために必要な技能を評価



化学火工品処理技能者集合訓練 (第14特殊武器防護隊)

化学火工品の取り扱い及び不発品の処理要領について必要な技能を付与 関連=④面



アナウンサー集合訓練 (第14旅団司令部)

各種行事における司会者の育成及び履修者の能力を向上

連隊野営の実施 各種射撃を実施し練度向上を図る

第50普通科連隊

第50普通科連隊(連隊長 山内和也1等陸佐)は、12月上旬、日本原演習場(岡山県)において連隊野営を実施した。本演習では、01式軽対戦車誘導弾(01ATM)、110mm個人携帯対戦車弾(LAM)、84mm無反動砲(84RR)及び81mm迫撃砲の実弾訓練を実施した。本射撃を実施するにあたり各隊員は日々安全管理を徹底し、練成に励んできた。当日は練成の結果を發揮し、所望の結果を獲得し、任務を完遂することができた。

各種射撃の様子

81mm迫撃砲



110mm個人携帯対戦車弾(LAM)



01式軽対戦車誘導弾(01ATM)



空包射撃(FH70)



心に響く演奏を

第15即応機動連隊



衣装を纏った善通寺十五聯太鼓の隊員

善通寺十五聯太鼓は、平成25年2月に隊員17名で活動を開始し、今年で10年の節目を迎える。現在、太鼓部長の紀平摩周3等陸曹(第1普通科中隊)を筆頭に隊員18名が活動している。中部方面隊音楽まつりに向け本年度自衛隊に入隊した3名の隊員が新たな勢力となり、基礎訓練とともに演奏曲目の練成を日々実施している。ニューフェースの杉本有咲1等陸士(本部管理中隊)は「見に来てくださるお客様に感動してもらえ、心意気を見せたい」と意気を見せた。

中部方面自衛太鼓集合訓練に参加する杉本1士



中部方面隊音楽まつりに向け 集中練成開始

総本山善通寺の五重塔が背に浮かぶ鮮やかな衣装を纏い、力強い太鼓の音が鳴り響き聴く人々の心を鼓舞させる善通寺十五聯太鼓

第15即応機動連隊(連隊長 徳淵文雄1等陸佐)は、11月上旬から善通寺駐屯地において、令和5年度中部方面隊音楽まつりに向け集中練成を開始した。

中部方面特科隊

要望事項「よく騙せ」「よく健在せよ」 有事を想定した射撃中隊訓練検閲を実施

中部方面特科隊(連隊長 細川香宣1等陸佐)は、10月下旬から11月上旬までの間、小野演習場(愛媛県)において、令和5年度射撃中隊訓練検閲を実施した。本検閲は、「よく騙せ」「よく健在せよ」の2点を要望事項に、作戦準備から火力戦闘に任ずる全般任務を付与された射撃中隊の行動を模したものである。作戦環境下という特性を再認識するとともに、作戦の終結に至るまであらゆる手段を尽くして健在性を保持し、火力戦闘を継続すること、旅団の戦いにおいて必要不可欠な戦闘能力である。



化学攻撃を想定し対処する隊員



重機関銃による対空戦闘

第14後方支援隊創隊17周年記念行事

第14後方支援隊



巡 閲



観閲官(佐藤1佐)



観閲部隊(川村2佐以下160名)

第14後方支援隊(隊長 欣央1等陸佐)は令和5年11月23日、善通寺駐屯地において、創隊17周年記念行事を実施した。当日は快晴に恵まれ、三豊市長をはじめ、歴代後方支援隊長、関係企業、家族会、OB、関係部隊長及び各自衛隊協力団体の会長など多くの方々にご臨席いただき記念行事は盛会に終わった。

観閲式の式辞において佐藤隊長は、「第14後方支援隊は『四国の守りの要である旅団の作戦を支える兵站・衛生支援部隊』である我々は、地域の皆様から信頼され、国民の負託にこたえられる強靱に支援を継続する部隊でなければならぬ。『任務即応』を合言葉に、いかなる事態にも即応し、与えられた任務を完遂できるよう『戮力協心(りくりよくきょうしん)』と『明るく前向きに』を常に意識して隊務に取り組んでもらいたい。」と述べた。

また、式典終了後は駐屯地隊員食堂において祝賀会食を実施し、ご来場された方々へ感謝の意を表するとともに、団結を深めた。

その他、駐屯地各所において各種イベント(職場体験、家族支援・子供広場、アトラクション等)を実施し、来場した隊員家族等との一体感を醸成を図るとともに、防衛基盤の充実に寄与した。

第14情報隊

ライジングサンダー23に参加

諸職種と情報と火力の連携!

必撮を胸に

第14情報隊(隊長 甲斐清博2等陸佐)は、10月下旬から11月中旬までの間、アメリカ本土の演習場で実施されたライジングサンダー23に参加した。情報隊は普通科、特科、機甲科部隊と連携し、上空を偵察飛行し敵情を解明するといった任務の下、氷点下の中でのクレーン作業や、様々な状況に遭遇しつつ飛行準備を完了した。

当日は、日本と違った環境下での各種訓練・機体のカメラ操作等、現地でしか体験できないものも多く、部隊として貴重な経験を積むことができた。

最後に隊長は、「香川県善通寺駐屯地からアメリカ本土の演習場とかなりの長距離移動であったが、隊員誰一人、病気やケガをする事なく全員で善通寺に帰隊でき、一安心。また今回の様な米国での訓練は滅多にないため、環境の変化にも即座に対処できる部隊を目指し、今回の経験を糧にさらに活躍していこう。」と締めくくった。



飛行点検を行う隊員

多職種13名が参加
自動2輪集合訓練を実施

第14偵察隊

第14偵察隊(隊長 堀慎也2等陸佐)は、10月下旬から12月上旬までの間、令和5年度旅団自動2輪操縦集合教育を担当し、旅団各部隊から集まった13名に対して、各種状況下におけるオートバイ操縦技能等を修得させた。

前段は、琴平自動車教習所において、自動2輪免許取得のために学科・技能講習を受講するとともに、授業外を活用して学科勉強等を実施するなど、慣れない自動2輪車に悪戦苦闘しながらも全員が検定合格を目指して真剣に取り組み、無事に免許取得の後段は、一



練度評価を受ける隊員(一本橋通過)



練度評価を受ける隊員(ブレーキターン)

11月下旬には、大池訓練場において、教育の集大成となる練度判定を実施した。

各隊員は、寒さと緊張により体が強張り、真剣な眼差し・熱意溢れる姿勢で臨み、これまでの練習成果を遺憾なく発揮し、低速走行、スラローム、一本橋通過、ブレーキターン、丸太越え等の基礎的な技術の判定に見事合格した。

第14偵察隊は、各種訓練のほか、来年度の駐屯地記念行事において、約4年振りに実施予定である「オートバイドリル」に向け、引き続き練度を向上させていく。



一般道走行を行う隊員

隊員インタビュー

第14飛行隊

初めて災害派遣活動に参加して



私は、第14飛行隊に所属し、無線通信手として勤務しています。第14飛行隊は、航空機を使って任務する部隊で、今回の災害派遣では、第14飛行隊が保有する航空機UH-1Jをもって、CHや防災ヘリを空中から統制するという任務でした。



松田 空1等陸士

その中で私は、航空機と無線通信をする無線通信手として勤務しました。飛行隊が展開した大洲市の運動公園は高い山が多く、無線機のアンテナをどこに設置したら航空機からの無線が聞き取れるかを創意工夫しながら行いました。無線が繋がらなければ地上から航空機を支援することができないため、私にとって最も重要な任務でした。

災害派遣は今回が初めてであり、何をしたらいいか、わからないこともたくさんありました。が、上司の指導により通信手段を確保することができ、通信手段としての自信を持つことができました。今回の災害派遣で自分が感じたことを次の災害派遣で活かせるように、日頃から準備していきたいと思えます。



訓練開始式



呼気点検

近SAM 短SAM 指揮

令和5年度訓練検閲の実施

第14高射特科隊(隊長 鶴ヶ野翔太2等陸佐)は12月上旬、小野演習場(愛媛県)において近SAM、短SAM及び指揮における訓練検閲を実施した。

本訓練は、高射特科隊の基本的な行動の中で各級指揮官の指揮、部隊の基本的行動及び隊員の基礎動作について評価・判定し、今後の進歩向上を目的とするものである。

訓練間、陣地占領、築城(個人用・重機関銃掩体の構築)、夜間における陣地変換及び実機による対空戦闘について演習し、隊の野外行動能力を向上させた。

検閲終了後、尻澤2等陸尉は「全小隊員が自身の任務を理解し、訓練の練成成果を十分に発揮できた。この練度を維持向上させたい。」と語り、柵木3尉は「対空実射に引き続き任務達成することが出来た。来年度に向けて精進し続ける。」と意気込んだ。また、松浦2曹は「初の班長として受閲し、大変なこともあったが無事に任務達成することができた。」と充実感とともに成果を語った。



状況掌握中の柵木3等陸尉



対空戦闘(93式近SAM)

第14通信隊

旅団演習のフォローアップを完了

新配置隊員も加わり隊訓練を実施

第14通信隊（隊長 小野田 小野田 陸佐）は、12月上旬、大池訓練場（香川県）及び国分台演習場（香川県）において隊訓練を実施した。本訓練は、新配置隊員の戦力化のための訓練と、10月に行われた旅団演習（大分県日出生台演習場）のフ

ォローアップのための訓練を主に実施した。当初大池訓練場において、今年度入隊した新配置隊員に対してタイヤチェーンの装着方法や車両誘導要領、ノードの発電機の取り扱い及び車両偽装など、車両部隊で

ある通信科隊員として基本的な野外行動について訓練を実施した。引き続き、旅団演習時より改良した警備要領について、机上で検討したものを国分台演習場において実地検証した。この際、教育隊入隊前の陸曹候補生を事前の教育と兼ねて敵役として配置させ、各候補生によりそれぞれ工夫して、通信所の偵察、襲撃等を実施した。攻守ともに任務を達成のすため、創意を尽くした訓練を実施し多くの成果を得ることができた。



手旗を活用した車両誘導訓練の様子
大池訓練場



警戒・自衛戦闘（機関銃で警戒する隊員）
国分台演習場

通信隊は旅団演習の教訓を早期に形にする中で、成果を最大限に蓄積し、来年以降のさらなる練度向上にまい進する。

第14施設隊

隊検閲(渡河器材)の実施 ニーズに合致した橋梁の架設



ガイドビームにより橋の基盤を架設する様子
(ビーム架設)



ビーム架設後、橋節を構成し車両による
通過点検の様子



発煙黄りん手りゅう弾投てき訓練の様子

第14特殊武器防護隊

化学火工品及び不発品の処理要領を学ぶ

第14特殊武器防護隊（隊長 西原清隆3等陸佐）は、11月中旬、善通寺駐屯地（香川県）及び国分台演習場（香川県）において、令和5年度化学火工品処理技能者集合訓練を担任・実施した。本訓練は、旅団各部隊の隊員に対し、化学火工品の取り扱い要領及び処理技能を習得させるための訓練であり、訓練参加者は、当初駐屯地内において化学火工品に関する基礎知識の座学、模擬弾を用いた実習（予行）により、化学火工品の取り扱い要領、不発品の処理要領について学んだ。当初は慣れない様子だった訓練参加者も復演練を通じて徐々に演習場での実弾を用いた化学火工品の取り扱い及び処理訓練により、化学火工品処理技能者として必要な知識及び技能を習得した。



化学火工品を受領する隊員



化学火工品の処理訓練の様子

教育項目は、「ヒューマンエラーが発生する要因及び対処法」「重機関銃射撃時の安全管理」及び「車両運行に係る安全管理」の3点である。教育に先立ち、不安全な事象のほとんどの原因は人であり、「人は必ずミスをする。」ことを前提として考えること、また、安全管理を徹底するためには、隊長の要望事項である「想像力の発揮」が、隊員一人ひとりに求められ、起こり得る不測事態をできる限り想像して、具体的な対策を講じることが安全管理に繋がることを理解させ教育を実施した。隊員は、教育中の討議を通じて、それぞれの経験に基づいた「想像力を発揮」して、如何にすれば不安全事故を回避し、安全に行動できるかについて、相互に意見交換を行い、安全管理意識の高揚を図った。



車両事故に関して
G P C と討議を行う様子



隊長による教育の様子

第14旅団司令部付隊

想像力を発揮して安全を期す

「安全の日」を活用し 隊員の意識向上を図る

第14旅団司令部付隊（隊長 菅貴光3等陸佐）は、11月下旬、善通寺駐屯地において、訓練事故の風化を防止するとともに今後の同種事案再発の絶無を図り、隊員の安全意識の向上を目的に第14旅団が制定する「安全の日」を活用し、安全管理の重要性について教育した。



隊長による教育の様子

人事往来

転出



第24普通科連隊
(第14旅団司令監察官)
2等陸佐 間仁田匡史

令和5年12月1日付

転入



第14旅団司令監察官
(信太山駐屯地業務隊)
2等陸佐 井上裕策



会場を盛り上げる
司会者(野堀3曹)
レインボーコンサート



アンサンブルによる演奏の様子
室内楽演奏会

第14音楽隊

四国各地で精力的な演奏、 広報活動を実施

第14音楽隊(隊長 中福島昭洋2等陸尉)は、11月5日にレインボーコンサート、11月23日に第12回室内楽演奏会などのイベントにおいて、演奏会を実施した。

レインボーコンサートは高知県の高知工科大学において例年行われているイベントであり、第14音楽隊は同大学の学生や周辺住民等の幅広い聴衆に向けた演奏曲目を披露し、陸上自衛隊に対する親近感の醸成に寄与した。音楽を使ったライブ「ソフアミレド」は今年7月に定年を迎えた隊員の司会による恒例プログラムであったが、今回から新たに同隊の野堀3曹によって引き継がれ、これまでとは異なるテイストでの司会が好評を博した。

第12回室内楽演奏会は、同隊主催による演奏会で、通常の吹奏楽編成による大編成の演奏ではなく、3〜10人の少人数アンサンブルによる演奏を行った。少人数での演奏により、隊員一人ひとりの音色にフォーカスした演奏を届けることができた。今年度はユープラザうたづ(香川県綾歌郡宇多津町)において実施され、約2時間にわたる隊員の熱演が繰り広げられた。このほかにも高校や大学の文化祭、地元善通寺市のイベント、旅団追悼式等に参加し、部内外において精力的に演奏活動を実施している。

部内・外表彰

部外

- 香川県メンズフィジーク・オープン 第3位(40歳以上の部)
 - 第14旅団司令部付隊 1等陸曹 吉木 亨
- 第1回香川県下銃剣道善通寺大会 第41回市民体育大会 優勝(団体戦)
 - 第14旅団司令部付隊 先鋒 2等陸曹 岡崎 慎吾
 - 中堅 陸曹長 橋本 和也
 - 大将 2等陸曹 能登 信尚
- 準優勝(団体戦)
 - 第14旅団司令部付隊 先鋒 2等陸曹 井上 忠良
 - 中堅 2等陸曹 高井 豊
 - 大将 3等陸曹 原田 泰熙
- 優勝(個人戦)
 - 第14情報隊 2等陸曹 寺嶋 勇次
- 第1回日本拳法火の国大会 第4位(団体戦)
 - 第15即応機動連隊 監督 2等陸曹 福岡 秀佳
 - 先鋒 3等陸曹 太田 圭裕
 - 中堅 3等陸曹 大西 義騎
 - 次鋒 3等陸曹 長野 翔太
 - 副将 陸士長 岡崎 彩季
 - 大将 2等陸曹 七河 将太

部内

- 第129期初級陸曹特技課程「輸送」輸送学校長賞
 - 第14後方支援隊 陸士長 中桐 伸弥
- 新隊員特技課程及び一般曹候補生課程 後期(支援助教) 中部方面衛生隊長賞
 - 第14後方支援隊 3等陸曹 佐藤 恵
- 第13後方支援隊長賞
 - 第14後方支援隊 3等陸曹 故島 壮佑
 - 陸士長 内田 美優
- 第33普通科連隊長賞
 - 第15即応機動連隊 3等陸曹 渡内 舜
- 第14普通科連隊長賞
 - 第15即応機動連隊 3等陸曹 本馬場天空
 - 3等陸曹 住友 広大
 - 陸士長 嶋田 夏海
 - 陸士長 岩佐 駿太
- 第3特殊武器防護隊長賞
 - 第14特殊武器防護隊 3等陸曹 森本 裕貴
- 第143期2次陸曹候補生課程 中部方面混成団長賞
 - 第14偵察隊 陸士長 豊島 玲穂
- 第14期陸曹中級課程 第4陸曹教育隊長賞
 - 第14施設隊 2等陸曹 原田 一輝

隊員家族投稿

「ぼくのお父さん」

中部方面特科隊

2等陸曹 吉田 智志
長男 悠真くん

ぼくのお父さんは自衛隊ではたらいています。2年ほど前に九州の宮崎県えびの市から四国の愛媛県に引っ越してきました。ぼくはラーメンが好きなので、引っ越ししてきたからは家族でいろいろなラーメン屋さんをめぐるたり、たまにお父さんと一緒に釣りに行ったりにしています。お父さんが釣ってきたイカをさしみにしたり、てんぷらにしたりイカの足を焼いたりして食べます。あとはぼくがイカでお寿司をにぎったりしています。それでできた寿司をみんながおいしいと言って食べてくれます。また寿司作りたいたから、お父さんたくさん釣ってきてね。

お父さんがごはんをつくることはめったにないですが、たまにチャーハンを作ってくれます。そのチャーハンはとってもおいしいです。さいきん、つくってないからおやすみのときにはチャーハン作っておくれやす。

父より
今度たくさんつくるからね◎



笑顔輝く✧✧ 飛行隊推しのムードメーカー

KEYPERSON

14th Brigade

今回は飛行隊で「これからキーパーソンになる！」であろう航空機整備員である三野1士にスポットライトを当てていきます。飛行隊が任務遂行するためには整備員の存在が必要不可欠であり、その中でも三野1士の活躍をアピールしていきたいと思えます。

三野1士に聞きました！
日頃どのようなお仕事をされていますか？
整備と聞くと航空機を整備するだけと思われがちですが、整備以外にも、航空機に乗り込んで必要な支援を行います。例えば、ヘリからの人命救助活動においては、航空機からワイヤロープで降下する「ホイスト」の操作を行って隊員を降下させて要救助者を救出します。その他にも、山林火災等の消火活動をする際に使用する「バケット」は整備員が操作します。航空機が安全確実に飛行し、任務完遂できるように、日々練成しています。

周りの方に聞きました！
三野1士はどんな人ですか？
温厚な性格でいつも明るく笑顔がまぶしい隊員です。

人一倍努力家で訓練にも積極的に臨んでいる姿勢は目を見張るものがあります。これからも、飛行隊のムードメーカーとしてさらに成長していける隊員です。

第14飛行隊 谷内3曹



地上において
ホイスト訓練を行う
三野1士(写真:左)



第14飛行隊
三野 雛(みの ひな) 1等陸士
趣味: ツーリング、ドライブ
好きな食べ物: 唐揚げ

航空科整備員となるためには、当初教育部隊等で自衛官としての基本基礎を学んだ後に、航空科部隊で航空科全般のことを学ぶ。部隊配置後、勤務を通じて航空機整備員としてのノウハウを上司から学びつつ部隊で実施される整備員に必要な検定を受ける。検定に見事合格することで航空機整備員として勤務できるようになる。

陸上自衛隊 第14旅団
逐次発信中!

第14旅団
ホームページ

第14旅団ホームページ
各種訓練・行事など
掲載中!